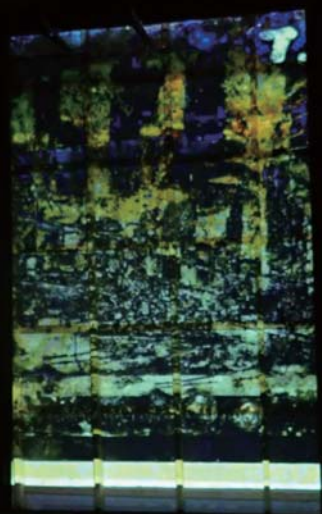


トークイベント

学術資料を用いた
表現行為の可能性

possibility of expression
with academic materials



日時 | 2018. **8.31** (金) 15:00-17:00

会場 | 北海道大学総合博物館1階知の交差点

北大総合博物館
「視ることを通して」展開連企画



トークイベント

学術資料を用いた表現行為の可能性



北海道大学総合博物館での企画展「視ることを通して」に関連して、同博物館所蔵の学術資料を用いて、映像作家の大島慶太郎と佐竹真紀が映像展示を展開しました。その表現は資料展示なのか、作品展示なのか。本展企画者と芸術学研究者をまじえ、学術資料を用いた表現行為の可能性を検討します。◎予約不要、入場無料

〈映像展示〉

資料名：庭園学ガラス乾板コレクション／作家名：大島慶太郎／
場所：北海道大学総合博物館 1階物品庫

資料名：気象学関係フィルムコレクション／作家名：佐竹真紀(映像)
中坪淳彦(音響)／場所：北海道大学総合博物館北側階段壁面

登壇者

大島慶太郎

映像作家。1977年釧路市生まれ。札幌市在住。2004年北海道教育大学大学院修了。2012~13年ケルンメディア芸術大学(ドイツ)フェロー。『動画構造の解体と再構築』をテーマに映像作品の制作及び、表現技法の研究を続ける。主な作品に『A FOUND BEACH -omnibus-』『Thinking Dot』『Mind Mounter』など。作品は国内外の映画祭、上映企画にて多数上映。2016年よりインディペンデントシアター第2マルバ会館の企画、プログラムにも携わる。現在、北海道情報大学情報メディア学部准教授。

佐竹真紀

1980年豊頃町生まれ。札幌市在住。北海道教育大学大学院修了。写真を使ったアニメーションを中心に制作。家族が残した写真やビデオの記録を元に、「記録」と「記憶」の狭間にある世界を探究している。新千歳空港国際アニメーション映画祭2017/北海道知事賞、VOCA展 2016/佳作賞、25. Stuttgarter Filmwinter/最高賞 Norman 2012など。

山下俊介

北海道大学総合博物館・助教。研究対象は学術機関に残る写真・映像等の資料のアーカイブ化。京都大学研究資源アーカイブなどを経て2015年より現職。持続的活用が可能な資料アーカイブの開発に取り組む。「視ることを通して」企画者。

コメンテーター

浅沼敬子(北海道大学文学研究科准教授)

司会：佐々木蓉子(北海道大学文学研究科修士課程)

北海道大学総合博物館2018夏季企画展「視ることを通して」

膨大な量の学術資料が大学の教育研究活動の中で収集され、また生み出されてきました。本展では、北海道大学総合博物館所蔵コレクションと放送大学附属図書館所蔵のコレクションを中心に、近代以降の人類の知の営み、特に学術活動の中で、写真などのビジュアル資料が担ってきた機能や切り拓いてきた局面をご覧ください、当たり前すぎる存在になったビジュアルメディアの意味を考え直します。また、ふだんあまり目にする事のない資料群を通して、大学や研究者の知的営みの一端も紹介します。展示では、学術資料の可能性を探求するため、資料を用いて制作された映像作品も展開します。活用される学術資料アーカイブの姿もご覧ください。

会 期：2018年8月3日(金)~10月28日(日)

会 場：北海道大学総合博物館 1階企画展示室および館内

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日休館)、8月6日(月)は特別開館、9月9日(日)は臨時休館

備 考：入場無料

